

みんなで暮らしやすい ユニバーサルデザイン ユニバーサルサービス社会をめざして！

ユニバーサルデザイン、ユニバーサルサービス社会をつくることによって、お互いを理解し合い、人を人として大切にすることを育て、人権を大切に、差別のない社会づくりを実現しましょう。

なぜ今、注目されているの？

世の中には子どもから高齢者までいろいろな人が生活していますが、人はやがて誰でも高齢者になります。高齢者になると、病気やけが、事故などにより、どうしても身体が自由に動かないというような人が増えてきます。

また若くても同じように、事故とか、けがや病気によって身体を奪われる場合も起こっています。

さらに妊娠中や小さな子どもさんを連れていたり、重い荷物や大きな荷物を持って自由に行動できない人もあります。

ユニバーサルデザインやユニバーサルサービスとは、高齢者、障害者、子ども、女性、外国人といったような誰かのためではなく、誰もが安心・安全に生活するための取り組みです。今、世界でこのような取り組みが広く進められています。



◀この自動販売機はお金の投入口が、子どもや高齢者でも入れやすい形になっていたり、品物の取出口が高い位置にあつて車椅子の人も取り出しやすい構造になっていています。最近このような自動販売機が少しずつ増えています。



▲障害者トイレと呼ばれるトイレも、多目的トイレと表記されている場合もあります。車椅子の人だけでなく、高齢者や子ども連れ、赤ちゃんを連れた人、人工肛門や人工膀胱を使用している人などの設備などがあつて、多くの人たちにも使用できるようになっています。

お互いを理解し、思いやる心

○一人ひとりを見つめ大切にしましょう。

○困っている人がいたら声をかけましょう。

○自分にとって当たり前でも、すべての人にとっても当たり前でしょうか。

○なにげない行為がほかの人の迷惑になっていませんか。

○年代や文化などによる違いを学び、お互いを理解しましょう。

ユニバーサルデザインやユニバーサルサービスの視点で、社会を見直すと、きっと新しい発見ができると思います。

見える障害と見えない障害

よく障害者といわれますが、障害者にも「見える障害」や「見えない障害」をお持ちの人があることにお気づきかと思っています。

「見える障害」には、車椅子や白い杖を使っている人のように、あきらかに障害をお持ちということがわかる場合があります。

「見えない障害」には、色弱の人、心臓に埋込型の除細動器やペースメーカーを埋め込んでおられる人のように、障害をお持ちだということが外からわからない場合があります。

ユニバーサルデザインやユニバーサルサービスを考えたとき、取り組むときに、障害者という囲みだけでなく、さまざまな視点や観点での対応が必要になってきます。

【参照】

- ユニバーサルデザインの考え方 梶本 久夫監修 丸善
- ユニバーサルを創る 井上 滋樹 著 岩波書店
- ユニバーサルデザイン（リーフレット） 鳥取県